



## 2023年12月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

2023年8月14日

上場会社名 株式会社フジオフードグループ本社  
コード番号 2752 URL <https://fujioogroup.com/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 藤尾 政弘

問合せ先責任者 (役職名) 財務部長 (氏名) 幾野 光宏

TEL 06-6360-0306

四半期報告書提出予定日 2023年8月14日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2023年12月期第2四半期の連結業績(2023年1月1日～2023年6月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年12月期第2四半期	14,847	18.1	24		33		192	
2022年12月期第2四半期	12,575	3.9	1,242		148		388	

(注) 包括利益 2023年12月期第2四半期 199百万円 ( %) 2022年12月期第2四半期 371百万円 ( %)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年12月期第2四半期	4.30	
2022年12月期第2四半期	8.83	

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年12月期第2四半期	21,237	1,893	8.8	41.43
2022年12月期	21,529	580	2.6	12.89

(参考) 自己資本 2023年12月期第2四半期 1,878百万円 2022年12月期 569百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年12月期		0.00			
2023年12月期		0.00			
2023年12月期(予想)					

(注) 2023年12月期の配当につきましては、未定とさせていただきます。

### 3. 2023年12月期の連結業績予想(2023年1月1日～2023年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	30,736	15.9	557		501		59		1.33

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

## 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料P. 10「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有  
以外の会計方針の変更 : 無  
会計上の見積りの変更 : 無  
修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料P. 10「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

2023年12月期2Q	45,337,860 株	2022年12月期	44,837,860 株
-------------	--------------	-----------	--------------

期末自己株式数

2023年12月期2Q	74 株	2022年12月期	703,474 株
-------------	------	-----------	-----------

期中平均株式数(四半期累計)

2023年12月期2Q	44,683,357 株	2022年12月期2Q	44,012,198 株
-------------	--------------	-------------	--------------

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

## 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書 .....	6
第2四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書 .....	7
第2四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	10
(継続企業の前提に関する注記) .....	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	10
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) .....	10
(会計方針の変更) .....	10
(四半期連結損益計算書関係) .....	10
(セグメント情報等) .....	11

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い経済活動が正常化に向けて進み始めましたが、為替市場の円安進行やロシア・ウクライナ情勢の長期化による原材料や資源価格の高騰等が続いており、依然として先行き不透明な状況が続いております。

外食産業におきましては、経済活動が正常化に向かい個人消費が回復の基調を見せつつありますが、原材料等の各種コストの高騰や慢性的な人手不足等によって、厳しい経営環境が続いております。

このような状況の中、当社グループは、「大衆というカテゴリーで日本一の外食企業となる」という確固たる目標のもと、既存事業の全体的な底上げを行うための商品開発、業態ごとの販売促進キャンペーン活動、店舗におけるサービス力向上を図るための教育・研修体制の強化等を行い、「まいどおおきに食堂」、「神楽食堂 串家物語」を中心とした全業態の経営成績の向上に全社一丸となって取り組みました。人々の生活様式の変化への対応においても、モバイルオーダー対応店舗の拡大や、お客様のニーズに合わせた商品開発を行う等、新規顧客の取り込みに注力してまいりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の経営成績は、売上高148億47百万円（前年同期比18.1%増）、営業利益24百万円（前年同期は営業損失12億42百万円）、経常損失33百万円（前年同期は経常損失1億48百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失1億92百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失3億88百万円）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりです。

#### <直営事業>

直営事業におきましては、国内及び海外において「まいどおおきに食堂」、「神楽食堂 串家物語」、「麺乃庄 つるまる」、「さち福や」、「天麩羅 えびのや」等の事業展開を行っております。

当事業では、時間別売上分析による適切なシフトコントロールによってコスト削減を行うとともに、販売実績のABC分析から顧客ニーズを図りターゲットを狙った商品開発を行いました。また、季節フェアキャンペーンの推進、SNSやメディアを活用したブランド認知度の向上、既存店舗の美装改装等による集客力向上施策を実施し、全ブランドの既存店の業績改善に努めてまいりました。

以上の結果、直営事業全体の売上高は141億12百万円（前年同期比18.9%増）、セグメント利益は9億19百万円（前年同期はセグメント損失2億48百万円）となりました。

#### <FC事業>

FC事業につきましては、加盟企業との親密なコミュニケーションを図りながら問題点の洗い出し・解消を図り、さらなる集客・売上の向上を目指しております。

コロナの影響により集合会議等を自粛している状況の中、リモート会議、フランチャイズニュースの刊行、少人数による個別店舗案内をおこなうとともに、既存ブランドの店舗改装やメニュー提案、場合により業態変更の提案等をおこなってまいりました。

以上の結果、FC事業全体の売上高は7億34百万円（前年同期比3.7%増）、セグメント利益は4億75百万円（前年同期比11.4%増）となりました。

当社グループの2023年6月末時点の店舗数は751店舗（直営店（国内）442店舗、直営店（海外）4店舗、委託店（国内）63店舗、FC店（国内）226店舗、FC店（海外）16店舗）となりました。ブランド別の店舗数は以下のとおりです。なお、各ブランドの売上高構成比の増減を鑑み、表示するブランドを変更しております。

	直営店 (国内)	直営店 (海外)	委託店 (国内)	FC店 (国内)	FC店 (海外)	合計
まいどおおきに食堂	89	2	23	176	7	297
神楽食堂 串家物語	77	-	2	24	4	107
麺乃庄 つるまる	20	-	14	7	3	44
さち福や	38	-	1	7	2	48
天麩羅 えびのや	33	2	2	3	-	40
その他	185	-	21	9	-	215
合計	442	4	63	226	16	751

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債、純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末における財政状態は、前連結会計年度末と比較して総資産は2億92百万円減少し、212億37百万円となりました。

資産につきましては、流動資産が前連結会計年度末から2億58百万円増加し、固定資産が5億50百万円減少しております。流動資産が増加した主な理由は、現金及び預金の増加7億91百万円、預け金の減少4億9百万円によるものであります。固定資産が減少した主な理由は、有形固定資産の減少3億7百万円、敷金及び保証金の減少2億1百万円によるものであります。

負債につきましては、前連結会計年度末と比較して16億5百万円減少し、193億43百万円となりました。これは主に借入の返済による減少11億20百万円、未払金の減少1億32百万円、未払費用の減少98百万円、長期未払金の減少1億円、未払消費税等の減少71百万円によるものであります。

純資産につきましては、親会社株主に帰属する四半期純損失の計上、第三者割当による新株式発行及び自己株式の処分等により、前連結会計年度末と比較して13億13百万円増加し、18億93百万円となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間におけるキャッシュ・フローは営業活動によるキャッシュ・フローが7億86百万円の収入、投資活動によるキャッシュ・フローが4億54百万円の支出、財務活動によるキャッシュ・フローが3億27百万円の収入となり、この結果、当第2四半期連結会計期間末の現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末と比較して6億69百万円増加し、62億57百万円（前年同四半期連結累計期間は63億47百万円）となりました。各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において営業活動によるキャッシュ・フローは7億86百万円の収入（前年同四半期は82百万円の収入）となりました。主な要因は、税金等調整前四半期純損失1億17百万円になったことに対して、非現金支出である減価償却費が3億64百万円、のれん償却額が48百万円、減損損失1億33百万円発生し、法人税等の還付額1億81百万円があったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において投資活動によるキャッシュ・フローは4億54百万円の支出（前年同四半期は3億97百万円の支出）となりました。主な要因は、有形固定資産の取得による支出が2億円、固定資産の除却による支出が1億94百万円、敷金及び保証金の差入による支出が34百万円発生したことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において財務活動によるキャッシュ・フローは3億27百万円の収入（前年同四半期は12億50百万円の支出）となりました。主な要因は、長期借入金の返済による支出が11億20百万円発生したことに対し、株式の発行による収入6億63百万円、自己株式の処分による収入8億49百万円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期業績予想につきましては、当第2四半期連結累計期間の実績値等を踏まえて修正いたします。詳細につきましては、本日（2023年8月14日）公表いたしました「2023年12月期第2四半期連結業績予想と実績値との差異及び通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	5,766	6,558
売掛金	539	529
棚卸資産	189	139
前払費用	271	266
未収入金	99	235
預け金	1,209	799
その他	468	286
貸倒引当金	△0	△14
流動資産合計	8,542	8,801
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	16,780	16,175
減価償却累計額	△8,772	△8,607
減損損失累計額	△2,936	△2,749
建物及び構築物 (純額)	5,071	4,818
工具、器具及び備品	5,593	5,383
減価償却累計額	△4,878	△4,737
減損損失累計額	△465	△442
工具、器具及び備品 (純額)	249	203
土地	859	859
建設仮勘定	15	1
その他	376	386
減価償却累計額	△366	△369
その他 (純額)	10	16
有形固定資産合計	6,206	5,899
無形固定資産		
のれん	1,464	1,416
その他	49	42
無形固定資産合計	1,514	1,458
投資その他の資産		
投資有価証券	410	398
関係会社株式	148	161
繰延税金資産	13	13
敷金及び保証金	3,758	3,557
その他	1,143	1,173
貸倒引当金	△207	△225
投資その他の資産合計	5,265	5,078
固定資産合計	12,986	12,436
資産合計	21,529	21,237

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	1,316	1,241
短期借入金	3,655	3,655
1年内返済予定の長期借入金	2,030	1,741
未払金	1,299	1,166
未払費用	591	492
未払法人税等	63	74
未払消費税等	340	268
株主優待引当金	249	286
資産除去債務	14	61
その他	341	365
流動負債合計	9,901	9,353
固定負債		
長期借入金	8,687	7,855
リース債務	10	15
資産除去債務	1,199	1,149
預り保証金	247	242
長期未払金	100	-
繰延税金負債	145	146
持分法適用に伴う負債	558	500
債務保証損失引当金	91	71
その他	6	9
固定負債合計	11,047	9,989
負債合計	20,948	19,343
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,297	2,627
資本剰余金	2,592	3,332
利益剰余金	△3,910	△4,102
自己株式	△439	△0
株主資本合計	540	1,856
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△23	△36
為替換算調整勘定	52	58
その他の包括利益累計額合計	28	21
新株予約権	11	15
純資産合計	580	1,893
負債純資産合計	21,529	21,237

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)
売上高	12,575	14,847
売上原価	4,538	5,237
売上総利益	8,037	9,609
販売費及び一般管理費	9,279	9,585
営業利益又は営業損失(△)	△1,242	24
営業外収益		
受取利息	1	1
賃貸収入	4	1
受取配当金	3	2
持分法による投資利益	-	21
雇用調整助成金	116	0
助成金収入	1,021	-
その他	34	28
営業外収益合計	1,181	57
営業外費用		
支払利息	57	43
支払手数料	0	56
持分法による投資損失	15	-
賃貸収入原価	4	0
その他	9	14
営業外費用合計	87	115
経常損失(△)	△148	△33
特別利益		
固定資産売却益	1	8
受取立退料	56	36
固定資産受贈益	-	24
持分変動利益	-	53
関係会社株式売却益	-	58
債務保証損失引当金戻入額	-	19
その他	0	-
特別利益合計	57	202
特別損失		
店舗解約損	15	112
固定資産除却損	45	6
減損損失	130	133
貸倒引当金繰入額	17	33
特別損失合計	209	286
税金等調整前四半期純損失(△)	△299	△117
法人税等	89	74
四半期純損失(△)	△388	△192
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△388	△192



(四半期連結包括利益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)
四半期純損失(△)	△388	△192
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1	△12
為替換算調整勘定	21	9
持分法適用会社に対する持分相当額	△6	△4
その他の包括利益合計	17	△7
四半期包括利益	△371	△199
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△371	△199

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失 (△)	△299	△117
減価償却費	480	364
のれん償却額	48	48
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	17	31
株主優待引当金の増減額 (△は減少)	32	36
受取利息及び受取配当金	△5	△4
支払利息	57	43
支払手数料	0	56
為替差損益 (△は益)	△8	△5
店舗解約損	15	112
固定資産売却損益 (△は益)	△1	△8
固定資産除却損	45	6
減損損失	130	133
関係会社株式売却損益 (△は益)	-	△58
持分変動損益 (△は益)	-	△53
助成金収入	△1,021	-
雇用調整助成金	△116	△0
持分法による投資損益 (△は益)	15	△21
売上債権の増減額 (△は増加)	89	10
棚卸資産の増減額 (△は増加)	11	50
仕入債務の増減額 (△は減少)	△141	△75
預け金の増減額 (△は増加)	418	409
未収入金の増減額 (△は増加)	53	1
立替金の増減額 (△は増加)	0	△15
前払費用の増減額 (△は増加)	△13	15
未払金の増減額 (△は減少)	△86	△78
長期未払金の増減額 (△は減少)	-	△100
未払消費税等の増減額 (△は減少)	3	△71
その他	△77	△67
小計	△350	643
利息及び配当金の受取額	5	4
助成金の受取額	1,002	0
利息の支払額	△58	△43
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△517	181
営業活動によるキャッシュ・フロー	82	786

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△298	△200
無形固定資産の取得による支出	△0	△0
有形固定資産の売却による収入	0	11
固定資産の除却による支出	△63	△194
関係会社株式の売却による収入	-	58
定期預金の預入による支出	△60	△180
定期預金の払戻による収入	60	60
貸付金の回収による収入	13	10
長期前払費用の取得による支出	△9	△3
敷金及び保証金の差入による支出	△45	△34
敷金及び保証金の回収による収入	84	100
その他	△79	△81
投資活動によるキャッシュ・フロー	△397	△454
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期借入金の返済による支出	△1,260	△1,120
株式の発行による収入	130	663
自己株式の処分による収入	-	792
配当金の支払額	△110	△0
リース債務の返済による支出	△10	△6
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,250	327
現金及び現金同等物に係る換算差額	25	9
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△1,539	669
現金及び現金同等物の期首残高	7,887	5,587
現金及び現金同等物の四半期末残高	6,347	6,257

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2023年3月16日付で、藤尾政弘氏及び株式会社ダスキンからの第三者割当増資の払込みを受け、資本金及び資本準備金がそれぞれ127百万円増加しております。さらに第14回新株予約権の一部について、権利行使による新株の発行を行ったことにより、資本金及び資本準備金がそれぞれ202百万円増加しております。

この結果、当第2四半期連結累計期間において資本金が2,627百万円、資本準備金が2,506百万円となっております。

また、2023年2月28日開催の取締役会の決議に基づき、2023年3月16日付で自己株式703,400株の処分を行い、自己株式が439百万円減少し、その他資本剰余金が409百万円増加しております。

この結果、当第2四半期連結会計期間末において、その他資本剰余金は825百万円となっております。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用の計算については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法によっております。ただし、見積実効税率を用いて計算すると著しく合理性を欠く場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。なお、これによる四半期連結財務諸表への影響はありません。

(四半期連結損益計算書関係)

助成金収入

新型コロナウイルス感染症に伴う政府及び自治体からの特例措置の適用を受けたものであります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期連結損 益計算書計上 額(注2)
	直営事業	F C事業	計		
売上高					
まいどおおきに食堂	2,241	—	2,241	—	2,241
神楽食堂 串家物語	3,295	—	3,295	—	3,295
麵乃庄 つるまる	429	—	429	—	429
さち福や	1,285	—	1,285	—	1,285
天麩羅 えびのや	900	—	900	—	900
その他	3,714	—	3,714	—	3,714
F C加盟金売上	—	75	75	—	75
F Cロイヤリティ売上	—	267	267	—	267
F Cイニシャル売上	—	54	54	—	54
F Cランニング売上	—	310	310	—	310
顧客との契約から生じる収益	11,867	708	12,575	—	12,575
その他の収益	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	11,867	708	12,575	—	12,575
セグメント間の内部売上高又は 振替高	—	—	—	—	—
計	11,867	708	12,575	—	12,575
セグメント利益又は損失(△)	△248	426	178	△1,421	△1,242

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△1,421百万円は、各報告セグメントに配分できない全社費用であります。全社費用の主なものは、提出会社の管理部門等の経費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「直営事業」セグメントにおいて、当第2四半期連結累計期間に閉店の意思決定がされた店舗及び営業活動から生ずる収益が著しく低下した店舗等について、当該店舗の資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上いたしました。なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においては130百万円であります。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間(自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期連結損 益計算書計上 額(注2)
	直営事業	F C事業	計		
売上高					
まいどおおきに食堂	2,492	—	2,492	—	2,492
神楽食堂 串家物語	3,915	—	3,915	—	3,915
麵乃庄 つるまる	501	—	501	—	501
さち福や	1,412	—	1,412	—	1,412
天麩羅 えびのや	988	—	988	—	988
その他	4,801	—	4,801	—	4,801
F C加盟金売上	—	80	80	—	80
F Cロイヤリティ売上	—	305	305	—	305
F Cイニシャル売上	—	38	38	—	38
F Cランニング売上	—	309	309	—	309
顧客との契約から生じる収益	14,112	734	14,847	—	14,847
その他の収益	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	14,112	734	14,847	—	14,847
セグメント間の内部売上高又は 振替高	—	—	—	—	—
計	14,112	734	14,847	—	14,847
セグメント利益	919	475	1,395	△1,370	24

- (注) 1. セグメント利益の調整額△1,370百万円は、各報告セグメントに配分できない全社費用であります。全社費用の主なものは、提出会社の管理部門等の経費であります。
2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。
3. 当第2四半期累計期間より売上高の表示区分を変更しております。各ブランドの売上高構成比の増減を鑑み「その他」に含まれていた当社のサブブランドであります「さち福や」「天麩羅 えびのや」を新たに表示し、「手作り居酒屋 かっぽうぎ」を「その他」へ含めました。  
なお、前第2四半期累計期間の売上高表示区分については、変更後の区分方法により作成したものを記載しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「直営事業」セグメントにおいて、当第2四半期連結累計期間に閉店の意思決定がされた店舗及び営業活動から生ずる収益が著しく低下した店舗等について、当該店舗の資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上いたしました。なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においては133百万円であります。